白藍塾オリジナル
2023年度 入試小論文分析＆解答のヒント

2023年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・看護医療学部

課題文はわかりやすい。「受け身でいるということ」の意味について、「聴く」ことを中心に語ったエッセー調の文章だ。

昨年度は２問とも説明問題だったが、今年度は要約問題＋小論文問題の２本立てになっている。

問題１は、「急いてはいけない。聴こうとしてもいけない」という箇所の説明を中心に、筆者の主張を要約する問題。なぜ「急いてはいけない。聴こうとしてもいけない」のかというと、相手から無理やり言葉を引き出そうとすると、相手に余計な負担を強いて、自分から口を開いてくれなくなってしまうからだろう。相手は「誰かに聴いてもらえる」と感じられて初めて、自分から口を開き、自ら物語ることができ、それによって自分自身を対象化することができる。このことを課題文の内容とつなげると、「受け身でいる」ことは、相手が塞いだ心を開き、自分自身を見つめ直し、自己を立て直すのをサポートするために必要だ、ということになるだろう。そうしたことを、字数に合わせて説明すればよい。

問題２は、「受け身でいるということ」についての筆者の考えを簡潔に示した上で、それに対する自分の考えを述べることが求められている。これは、課題文のメインテーマについて論じる通常の小論文問題と同じパターンだ。とはいえ、この課題文にノーで書くのは難しいので、素直にイエスの立場で書くほうがよいだろう。

無理やり医療の問題とつなげる必要はないが、やはり「ケア」と結びつけて考えてみるほうが論じやすい。ケアとのかかわりについては、課題文の第４段落に「教育やケア（子育てや介助・介護）は、～」とあるだけだが、医療におけるケアや看護があくまでも患者が自立して生活できるようにサポートし、患者のＱＯＬの維持・向上を目的とすることを考えると、課題文のいう「受け身でいる」ことはまさにケアや看護にとって不可欠な態度と言えるはずだ。そうしたことを第３部でしっかりと論じるようにすれば、十分説得力のある内容になる。

＊ 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。
発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179） https:// hakuranjuku.co.jp